神奈川県海老名市

杉久保宮ノ前遺跡発掘調査報告書

２０２０

海老名市教育委員会

例言

1．本書は神奈川県海老名市杉久保北二丁目 1066、1079-1、1080 に所在する杉久保宮ノ前遺跡（海老名市 No.33 遺跡）の埋蔵文化財発掘調査報告書である。

2．発掘調査は、海老名市立杉久保地区学習等併用施設（杉久保コミュニティセンター）建設の用地造成及び防火水槽設置に伴う事前の記録保存調査として海老名市教育委員会が実施したものである。

3．発掘作業から報告書刊行までの期間及び出土品等整理作業の期間は次のとおりである。

発掘調査期間：平成５年１月 13 日から平成５年１月 18 日、平成５年 10 月６日

出土品等整理作業期間：平成 29 年度から令和元年度にかけて断続的に実施した。

報告書刊行期間：令和元年度に断続的に実施した。

4．発掘調査及び出土品整理作業、報告書刊行は海老名市教育委員会　押方みはる（服部みはる）が担当し、実施した。

5．整理作業のうち、出土品の整理及び実測、遺物写真撮影は田尾誠敏氏（東海大学講師）に依頼し、図面整理、デジタルトレースは市川由希子（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）が行った。本書の執筆は田尾、押方、和田山千暁（海老名市教育委員会教育総務課文化財係）が以下のとおり分担し、全体の編集は押方が行った。

押方みはる　第１章、第３章第１，２節、第３章遺構部分、第４章

和田山千暁　第２章

田尾誠敏　第３章第３節遺物部分

6．写真撮影は遺構を押方が、遺物は田尾が行った。

7．本発掘調査に係る出土品及び図面、写真等の記録類は、一括して海老名市教育委員会で保管している。

8．本発掘調査にかかる出土品の注記については、遺跡名を「№33」と記した。

9．本書の遺構、遺物の挿図の指示は次のとおりである。

・遺構（調査区）実測図の方位は真北を示し、水糸高は海抜高度を指す。

・土層観察の色調は『新版標準土色帖』（小山・竹原 1988）に準拠している。

・挿図の縮尺は各図に示す。

10．発掘調査及び整理調査に際し、次の諸氏、諸機関よりご協力、ご教示賜った。（順不同、敬称略）

高橋豊、高橋輝由、有限会社文化財サービス、神奈川県教育委員会

目次

第１章　調査の経過　……1
第１節　調査に至る経緯と経過 …1
第２節　調査等体制　……2
第２章　遺跡概観　……2
第１節　地理的環境　……2
第２節　歴史的環境　……2
周辺の遺跡　……2
第３章　調査の方法と成果　……5
第１節　調査の方法　……5
第２節　基本層序　……5
第３節　発見された遺構と遺物 …5
１．平安時代　……5
２．中世　……6
３．遺構外出土遺物　……7
第４章　まとめ　……7
参考引用文献　……8

挿図目次

第１図　杉久保宮ノ前遺跡発掘調査地点……　9
第２図　周辺の主要な遺跡　……　10
第３図　発掘調査区域　……　11
第４図　調査区全体図・土層堆積状況図　……　12
第５図　１号竪穴建物跡平面図・断面図…　13
第６図　１号・２号井戸平面図・断面図…　14
第７図　防火水槽設置部分調査平面図・土層堆積状況……　14
第８図　１号竪穴建物跡出土遺物（１）…　15
第９図　１号竪穴建物跡出土遺物（２）…　16
第10図　１号井戸出土遺物　……　17
第11図　遺構外出土遺物　……　17

表目次

第１表　調査に係る届出等の経過一覧 …1
第２表　１号竪穴建物跡出土土器観察表…　15
第３表　１号竪穴建物跡出土瓦観察表 …　16
第４表　１号井戸遺物観察表 ……　17
第５表　遺構外出土遺物観察表 ……　17

写真図版目次

図版１　１号竪穴建物跡全景
１号竪穴建物跡掘方全景
カマド全景
カマド遺物出土状況
カマド遺物出土状況（南西から）
１号井戸
２号井戸
防火水槽設置部分調査状況
図版２　１号井戸出土遺物
１号竪穴建物跡出土遺物
遺構外出土遺物

第１章　調査の経過

第１節　調査に至る経緯と経過

平成４年度に（仮）杉久保地区学習等供用施設（杉久保コミュニティセンター）建設が計画され、平成５年１月に海老名市杉久保(現杉久保北２丁目)1066 他２筆において造成工事が開始された。工事中の平成５年１月 12 日、造成土中から土師器等の遺物の出土が海老名市教育委員会(以下、市教育委員会)により確認された。周辺の畑についても確認したところ土師器、須恵器の破片の散布が認められる状況が確認できた。当該地は周知の埋蔵文化財包蔵地ではなかったため、工事を一時中断し、切土を行う開発区域の東側部分について、文化財保護法 98 条に基づき市教育委員会で記録保存の発掘調査を実施することとした。発掘調査は平成５年１月 13 日から１月 18 日にかけて実施した。発掘調査の結果、古代から中世の遺構が確認されたため、文化財保護法第 57 条に基づき本開発区域及びその東側について新発見の埋蔵文化財包蔵地として神奈川県教育委員会に報告し、海老名市№33 埋蔵文化財包蔵地となった。この後、平成５年２月１日付けで改めて海老名市長より文化財保護法第 57 条の３に基づき当該地への杉久保コミュニティセンターの建築について通知がなされた。建築等土木工事の大部分は造成に伴い発掘調査を実施していたが、防火水槽部分については未実施であったため、発掘調査についての指示が神奈川県教育委員会よりなされた。このため、市教育委員会で平成５年 10 月６日に防火水槽部分について発掘調査を実施したが、遺構遺物とも確認されなかった。

本遺跡は№33 遺跡としていたが、本報告書作成にあたり、遺跡の名称を杉久保宮ノ前遺跡とした。

第１表　調査に係る届出等の経過一覧

文書種別・内容	文書番号	日付	発信者	受信者	備考
1　建築行為事前協議書の提出					
建築行為事前協議書		平成5年1月11日	海老名市企画部長	海老名市教育委員会教育長	
2　文化財保護法第98条2に基づく発掘調査の届出					
発掘調査の届出		平成5年1月12日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
3　文化財保護法第57条3に基づく土木工事等の届出					
土木工事等の届出		平成5年2月1日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
土木工事等の届出に対する通知	文第6-783号	平成5年2月1日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
4　文化財保護法第98条2に基づく発掘調査の届出					
発掘調査の届出		平成5年9月29日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
発掘調査の届出に対する通知	文第5-232号	平成5年9月29日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	
5．出土品の手続き					
埋蔵物発見届		令和2年3月30日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
出土文化財保管証の提出		令和2年3月30日	海老名市教育委員会教育長	神奈川県教育委員会教育長	
埋蔵物の文化財認定と帰属について	文遺第51010号	令和2年7月17日	神奈川県教育委員会教育長	海老名市教育委員会教育長	

第２節　調査等体制

発掘調査（平４・５年度）

調査組織　海老名市教育委員会

海老名市教育委員会教育長 亀井英一、社会教育部長 伊波幸雄（平成５年４月まで）、伊波進（平成５年５月から）、社会教育課長 志村秀雄（平成５年４月まで）、組谷徳全（平成５年５月から）、文化財係長 組谷徳全（平成５年４月まで）、飯田幸一（平成５年５月から）、主任主事 横山丘明、主事 指籏幸治、主事 須田誠、主事 告原幸治、主事 服部みはる（担当）

出土品整理・報告書作成（平成 29～令和元年度）

調査組織　海老名市教育委員会

海老名市教育委員会教育長 伊藤文康、教育部長 岡田尚子（平成 29 年度）、伊藤修（平成 31 年度）、教育部次長 金指太一郎（平成 29 年度）、萩原明美（平成 31 年度）、教育総務課長 吉川浩（平成 29 年度）、中込紀美子（平成 30・31 年度）、文化財係長 押方みはる（担当）、主査・副主幹 今野まりこ、主任主事・主査 向原崇英、臨時職員 市川由希子、和田山千暁

第２章　遺跡概観

第１節　地理的環境（第１図）

杉久保宮ノ前遺跡は、神奈川県海老名市杉久保北二丁目に所在する。海老名市の南東にあたり、相模鉄道、小田急小田原線海老名駅からは南南東約３km、東名高速道路海老名サービスエリア（下り線）から 400m ほど南西にある。遺跡の南東側には豊受大神があり、遺跡のある小字名は宮ノ前となっている。

本遺跡の所在する海老名市は、神奈川県のほぼ中央に位置し、相模川の左岸に存在する。市域の地形は大きく分けると、西側は相模川の浸食、堆積によって形成された沖積低地、東側は相模野台地、座間丘陵から成り立っている。本遺跡の地形は、座間丘陵から相模野台地西端の田名原面へ移行する斜面地にあたり、調査地点から 150mほど西側には、釜坂川が南流する。釜坂川沿いの低地は標高約 21～23mで、本調査地点は約 22～29mを測り、比高差は約７m である。

第２節　歴史的環境

周辺の遺跡（第２図）

市域には旧石器時代から近世に至るまで各時代の遺跡が台地、丘陵、相模川河岸の自然堤防上を中心に多く確認されている。ここでは本遺跡の主な時代である奈良・平安時代、中世の遺跡について概観する。市内における奈良・平安時代の遺跡は多く、なかでも代表的な遺跡として国史跡相模国分寺跡（海１）があげられる。相模国分寺は全国の国分寺の中でも広大な面積を持ち、確認された区画溝から東西約 240m、南北約 300m の範囲であったと考えられており、調査により金堂跡、塔跡、中門・回廊跡、僧房跡、北方建物跡などが確認されている。出土した瓦は、創建期のものは主に横須賀市乗越瓦窯産、その後は東京都町田市瓦尾根瓦窯の瓦が主体となる状況が判明している。相模国分寺跡の北方約 500m には国史跡相模国分尼寺跡（海２）があり、金堂跡、講堂堀込地業、鐘楼経蔵跡、中門跡や回廊跡の遺構が確認されている。国分寺跡から目久尻川を挟んだ対岸の丘陵斜面上に位置する望地遺跡（海 34）では８世紀前半の竪穴建物跡や複数の道路状遺構が重複して発見されており、延喜式の駅路が想定されている。

市域中央部には上浜田遺跡（海 45）、大谷坊原遺跡（海 58）、大谷吉久保遺跡（海 59）、大谷真鯨遺跡（海 60）、大谷下浜田遺跡（海 69）、大谷向原遺跡（海 77）、大谷市場遺跡（海 80）などがあり、台地平坦部及び縁辺部に集落が形成されている。上浜田遺跡では８世紀～10 世紀にかけての 116 軒の竪穴建物跡と 16 棟の掘立柱建物跡が調査され、土師器、須恵器、灰釉陶器などが出土している。上浜田遺跡の西側にある大谷市場遺跡では、７世紀～９世紀代の竪穴建物跡や掘立柱建物跡が確認されており、掘立柱建物跡には桁行が 4 間以上になるものもある。大谷向原遺跡では７世紀後半から 10 世紀代の竪穴建物跡 150 軒と 54 棟の掘立柱建物跡、火葬墓が発見されている。出土遺物には皇朝十二銭の一つである隆平永宝、風字硯、海老錠の鍵といった特殊なものもあり、墨書土器も 39 点出土している。そのうち１点は甲斐型坏「高坐官」と読めるもので、高座郡の役所や駅家に付設された宿泊施設や郡司層の屋敷等を想定する考えがある。また大谷向原遺跡の北側にある大谷真鯨遺跡からも古代の竪穴建物跡９軒、掘立柱建物跡３棟の他、大型の井戸２基が検出されているほか、大谷下浜田遺跡第 14 次からは９～10 世紀の道路状遺構が確認されている。

相模川東岸の自然堤防上にも数多くの古代遺跡が確認されている。河原口坊中遺跡（海 52）では、８～９世紀代を中心とした竪穴建物跡、掘立柱建物跡等が確認され、社家宇治山遺跡（海 76）では８～９世紀にかけての竪穴建物跡や井戸址、畝状遺構や、８～10 世紀の南北に続く道路状遺構も確認されている。近接する中野桜野遺跡（海 81）では竪穴建物跡、溝状遺構、井戸址、焼土址などが、跡堀遺跡（海 82）では竪穴建物跡、野外炉、溝状遺構等が検出されている。

本遺跡近くでは杉久保内藤原遺跡（海 90）、杉久保釜坂遺跡（海 89）などが発見されている。杉久保内藤原遺跡は、標高 29～33m の台地の南西縁に位置する。遺構としては竪穴建物跡４軒、掘立柱建物跡３棟、溝状遺構３条が検出されている。杉久保釜坂遺跡は武蔵野面よりも標高の高い多摩面に相当し、台地南西の縁に近く標高約 30～37m にかけて位置している。遺構としては竪穴建物跡 16 軒、竪穴状遺構１基、掘立柱建物跡 14 棟、溝状遺

構４条が検出された。墨書土器、鉄製品などが出土している。

市域南では相模原台地上に本郷遺跡（海３）、本郷中谷津遺跡（海４）がある。本郷遺跡では７～11 世紀の竪穴建物跡 447 軒、掘立柱建物跡 92 棟が発見されている。三面廂を持つ大型の掘立柱建物跡も確認され、周囲から「寺」の墨書、瓦塔片など仏教的な色彩の強い遺物が出土することから「村落内寺院」が存在した可能性が考えられている。その他、鍛冶遺構、井戸跡、柵列跡、土壙墓、火葬墓なども検出されており、緑釉陶器、灰釉陶器の出土も多く、海老錠、風字硯、石帯、筆、特異な遺物も出土している。本郷中谷津遺跡でも８～10 世紀の集落跡が確認されている。８次調査で掘立柱建物跡が３棟、竪穴建物跡 14 軒が確認されており、墨書土器、海老錠などの鉄製品も出土している。

中世の遺跡についても、多くは奈良・平安時代の遺跡の立地と重複する。著名なものとしては神奈川県指定史跡「上浜田中世建築遺構群」（上浜田遺跡）が挙げられる。丘陵東側の斜面を二段に造成、庇付掘立柱建物跡５棟、井戸跡１基などが確認された。遺物としては瀬戸や常滑の瓶子、壺、舶載品の青磁や青白磁などもが出土している。鎌倉時代～室町時代の武士の屋敷とみられている。同様な屋敷跡は中野桜野遺跡、社家宇治山遺跡でも確認されている。

中野桜野遺跡では、14 世紀前半以降の掘立柱建物跡８棟、竪穴状遺構９基、溝状遺構 22 条、井戸跡 17 基などが確認された。中世前期に遡る陶磁器、金属製品、木製品が比較的豊富に出土しており、青磁や、白磁などの舶載磁器、嘉祐通寶なども出土した。社家宇治山遺跡では中世から近世の掘立柱建物跡 56 棟、竪穴状遺構 39 基、道状遺構４条、溝状遺構 238 条、井戸 149 基などが発見されている。溝状遺構からは、13～14 世紀代の舶載磁器、13 世紀後半から 14 世紀初頭と 15 世紀後半～17 世紀初頭にかけての瀬戸緑釉皿、常滑片口碗などが発見されている。本郷遺跡でも小規模ながら掘立柱建物跡４棟、井戸状遺構４基、土坑墓２基などが発見されている。

この他、大谷市場遺跡、杉久保内藤原遺跡、杉久保釜坂遺跡、杉久保遺跡（海 10）、河原口坊中遺跡などでも、井戸、堀、溝などの遺構が確認されており、屋敷地や牧等を区画した遺構とみられている。河原口坊中遺跡では、多量のかわらけや白磁、仏具も出土しており、海老名氏との関連がうかがえる。

生産遺跡としては河原口の四大縄遺跡（海 47）が挙げられる。四大縄遺跡は弥生時代中期まで遡る水田耕作が示唆されるものの、水田跡で区画を伴うのは中世になってからである。水田跡や畦畔跡から、瀬戸・常滑・渥美などの国産陶磁器とともに、舶載陶器もわずかに出土している。

杉久保宮ノ前遺跡について今回の調査以外に発掘調査事例はなく、周辺に古代から中世の遺跡は点在するものの遺構の密度は散漫な状況とみられる。

第３章　調査の方法と成果

第１節　調査の方法（第３図）

本調査はコミュニティセンター建築に伴う敷地の切土工事中に遺物が発見されたため、また防火水槽の設置に伴い実施したものである。調査範囲は遺物の分布が認められた敷地東側を中心に設定し、切土に伴う調査面積は 612 ㎡、防火水槽設置に伴う調査面積は 20.8 ㎡であった。

第２節　基本層序（第４図）

表土は場所により厚く、30～100 ㎝ある。堆積状況が良い区域東側では、表土下は黒色スコリアを多く含む黒褐色土のⅢ層が 20～35 ㎝、橙色のスコリアを多く含むⅣ層 20～30 ㎝の厚さをもって確認され、その下のⅤ層は富士黒色土層であった。遺構の確認は概ねⅣ層～Ⅴ層で行った。

敷地西側の市道近くに設置された防火水槽の掘削時の状況としては、現状地盤から 30～50 ㎝は盛土、以下Ⅴ層の富士黒色土が 20～30 ㎝、関東ローム層であった。

第３節　発見された遺構と遺物

調査区の東側よりで、井戸２基、竪穴建物跡１軒を確認した。このほか２ケ所ほどで土層の硬化面が確認されたが、明確な遺構は確認できなかった。

防火水槽部分からは、遺構遺物の出土はなかった（第７図、写真図版１）

出土遺物につていては、土師器、須恵器、瓦、灰釉陶器の他、縄文土器の小片が１点出土している。遺物の総量は試掘調査分を含め、遺物収納箱２箱で、土師器の総量は 439ｇ、須恵器 388.5ｇ、瓦 1857.4ｇ、灰釉陶器 509.4ｇ、縄文土器 22.5ｇであった。

１．平安時代

１号竪穴建物跡（第５図、写真図版１）

2.2×2.35ｍの方形で、南東壁の南よりにカマドを構築する。確認面から床面までは 15～20 ㎝程度で、覆土は黒色スコリア等を含む黒褐色土であった。床下に 0.6×0.85ｍの土坑があり、土坑壁面に粘土が薄く貼られていた。

カマドは礫を芯にロームブロックや黒褐色土により袖部を構築し、瓦を立てて補強材としている。燃焼部には焼土が２～３㎝、その下に灰層が２㎝ほど認められた。堆積煙道が１ｍ近く張り出しており、煙道部にも焼土が厚く堆積していた。カマド周辺からは、須恵器、灰釉陶器、土師器等が出土している。

１号竪穴建物跡出土遺物（第８・９図、第２・３表、写真図版２）

１号竪穴建物跡から出土した遺物は総量としては少なく、主にカマドおよびその周辺を中心に出土した。そのうち、器形などの特徴がわかるものを提示した。１～６はロク

ロ土師器の坏で、いずれも色調は黄褐色系で、軟質な焼成であるという共通した特徴を示す。これらの特徴は相模型坏と共通することから、在地産であると判断できる。２は小破片であるため、口縁部の歪みにより本来ならば口径・底径比が大きくなる可能性がある。ロクロ土師器坏のほとんどに煤の付着がみられることから、灯明具に使用されたと考えられる。これらに、７のロクロ土師器高台埦が伴う。内面に炭素を吸着させた、いわゆる内黒土器である。茶褐色の色調を呈する厚手の土器で、相模地域でしばしば見かけられるものであることから、これも在地産の可能性がある。８は灰釉陶器埦である。施釉はハケ塗りで三ヶ月高台を有するが、高台内はヘラ削りではなくナデが施されており、わずかに糸切り痕が観察できる。愛知県豊橋市二川窯以東の製品であると思われるので、K90 号窯式併行ないしは 053 号窯式併行でも古い技法を残しているものである可能性も考えられる。

９～13 はいずれも在地産である相模型の土師器小型甕で、大型の甕は破片も含めて少なかった。13 は脚台との接合部にあたり、台付甕になる。時期的にみても、他の小型甕もほとんどが台付甕になるであろう。

14～20 は瓦で、このうち 14～17 が丸瓦、18～20 が平瓦で、軒瓦は含まれていない。いずれも凹内面には布目痕を残し、丸瓦は凸面をナデで仕上げ、平瓦は縄叩き痕を残す。胎土は細密で、南多摩窯跡群御殿山窯の製品であると考えられる。18 はカマドの天井部に設置されていたことや他の大ぶりの破片もがカマドから出土していることから、これらの瓦は礫や切り出しロームと共にカマドの構築材として使用されたものであろう。

これら１号竪穴建物跡の出土遺物を概観すると、土師器の供膳形態はロクロ土師器が中心で相模型坏類を含まないこと、須恵器坏類が組成に含まれないこと、小型甕には相模型の特徴がみられるが大型甕を欠くことなどの特徴が挙げられる。このことから１号竪穴建物跡は、相模型坏の生産が終了した 10 世紀後半から 11 世紀代にその年代が求められるが、K90～053 号窯式の灰釉陶器埦が含まれることや、相模型の小型甕を伴うこと、カマドの構築材に御殿山窯産の瓦を用いていることなどから、11 世紀には食い込まない時期に置くことができるであろう。

２．中世（第６図、写真図版１）

１号井戸

確認面で長軸 2.1m、短軸 1.6mの卵形の平面形を呈する。約 0.8m掘り下げたが湧水により、底面までの調査は不可能であった。覆土は上層が黒褐色土で３～５㎝大の粘土を少量含み、下層は黒色土で水気を含み、非常に粘性の強い土であった。

２号井戸

確認面で 1.1～1.15mの円形の平面形を呈する。約 1.8m掘り下げたが湧水により、底面までの調査は不可能であった。ほぼ垂直に掘られ、足掛け穴が確認された。覆土は上層が黒色土で混入物は少なく、粘性、しまりともなく、下層はやや水気を含む状況であった。ともに詳細な時期は不明であるが、確認面及び土層の状況から中世と判断した。

１・２号井戸出土遺物（第 10 図、第４表、写真図版２）

１・２号井戸から出土した遺物は極めて少なく、呈示できたのは１号井戸から出土した平瓦が１点にすぎない（第 10 図１）。この瓦は１号竪穴建物跡出土の細密な胎土とは異なり、粗い砂粒や鉱物を含むものであった。凹面には布目が凸面には縄叩きが残り、端部に面取りがある古代瓦である。しかしながら、１号井戸からは中世陶器と考えられる甕の破片が出土していること、２号井戸からはかわらけとみられる小破片が出土していることからも、これら２基の井戸は中世の所産であると考えられる。

３．遺構外出土遺物（包含層遺物）（第 11 図、第５表、写真図版２）

遺構確認面までの第Ⅲ層包含層には遺物の小片が多く認められた。本調査地点で確認された遺構は竪穴建物跡１軒と井戸２基のみであることから、出土した遺物は本来これらの遺構に属するものか、より掘り方が浅く確認できなかった遺構に属するもの、小片については地形的に東側の台地からの流れ込みによるものとみられる。遺物は比較的多かったが小破片ばかりで、４点が実測できたにとどまる（第 11 図）。

１は縄文土器の小破片である。外面に沈線文を施文し、内面にはヘラミガキを施す。縄文時代後期の深鉢形土器とみられる。２はロクロ土師器坏である。３は灰釉陶器埦の底部破片で、三ヶ月高台の内側に回転糸切り痕を残す。表面や破断面にみられる胎土の観察から美濃産と思われるので、053 窯式に併行する大原２号窯式の製品であろう。４は丸瓦の破片である。凹面には布目痕が残り、凸にはナデが施される。焼き上がりは硬質で、凸面には焼成時の降灰が認められる。縄文土器以外の３点は、１号竪穴建物跡とほぼ同時期の所産である。

第４章　まとめ

杉久保宮ノ前遺跡は、コミュニティセンターの造成工事中に発見されるまで、埋蔵文化財包蔵地として確認されていなかった。調査面積 632.8 ㎡の中で確認された遺構は、中世の井戸２基、平安時代の竪穴建物跡１軒と少なく、当該地に古代から中世の集落が連綿とあったといえる状況ではない。竪穴建物跡は１軒のみであり、あえて集落外に設けられたもののように見える。

１号竪穴建物跡には、カマドの構築材に南多摩窯跡群御殿山窯産の瓦が使用されていたが、瓦をカマドの構築材とする事例は、寺院跡や官衙関連施設に比較的近い場所で確認されることが多い。現在のところ杉久保宮ノ前遺跡の周辺に寺院跡等施設は確認されておらず、御殿山窯の瓦が使用されている寺院跡として最も近い相模国分尼寺跡でも直線距離で約４㎞ほどある。御殿山窯産の瓦は９世紀後半から 10 世紀代に生産されていたとみられ、近隣では他に茅ヶ崎市下寺尾七堂伽藍跡、厚木市鐘ケ嶽廃寺で出土している。

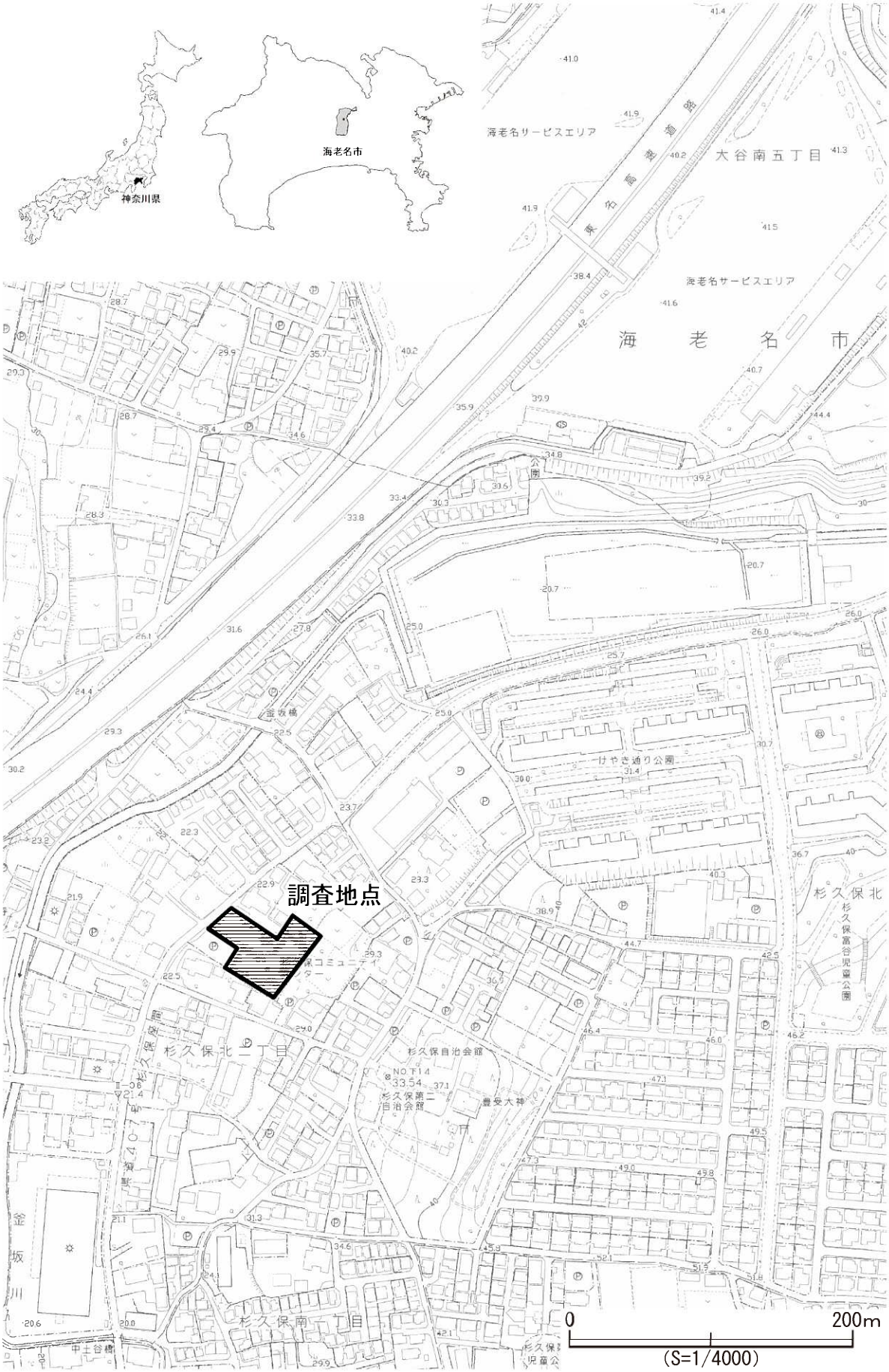
１号竪穴建物跡は、カマドの煙道が長く、床下土坑を持つ特殊な形態であり、瓦の他に特殊な遺物はないものの、寺院や僧侶の活動に関連した建物であった可能性も考えられる。

中世の遺構について、調査区内では建物跡や溝、堀などは確認されなかったが、東側台地上の杉久保遺跡では、台地を囲む堀が確認されており、周辺に屋敷地などが存在した可能性も考えられる。

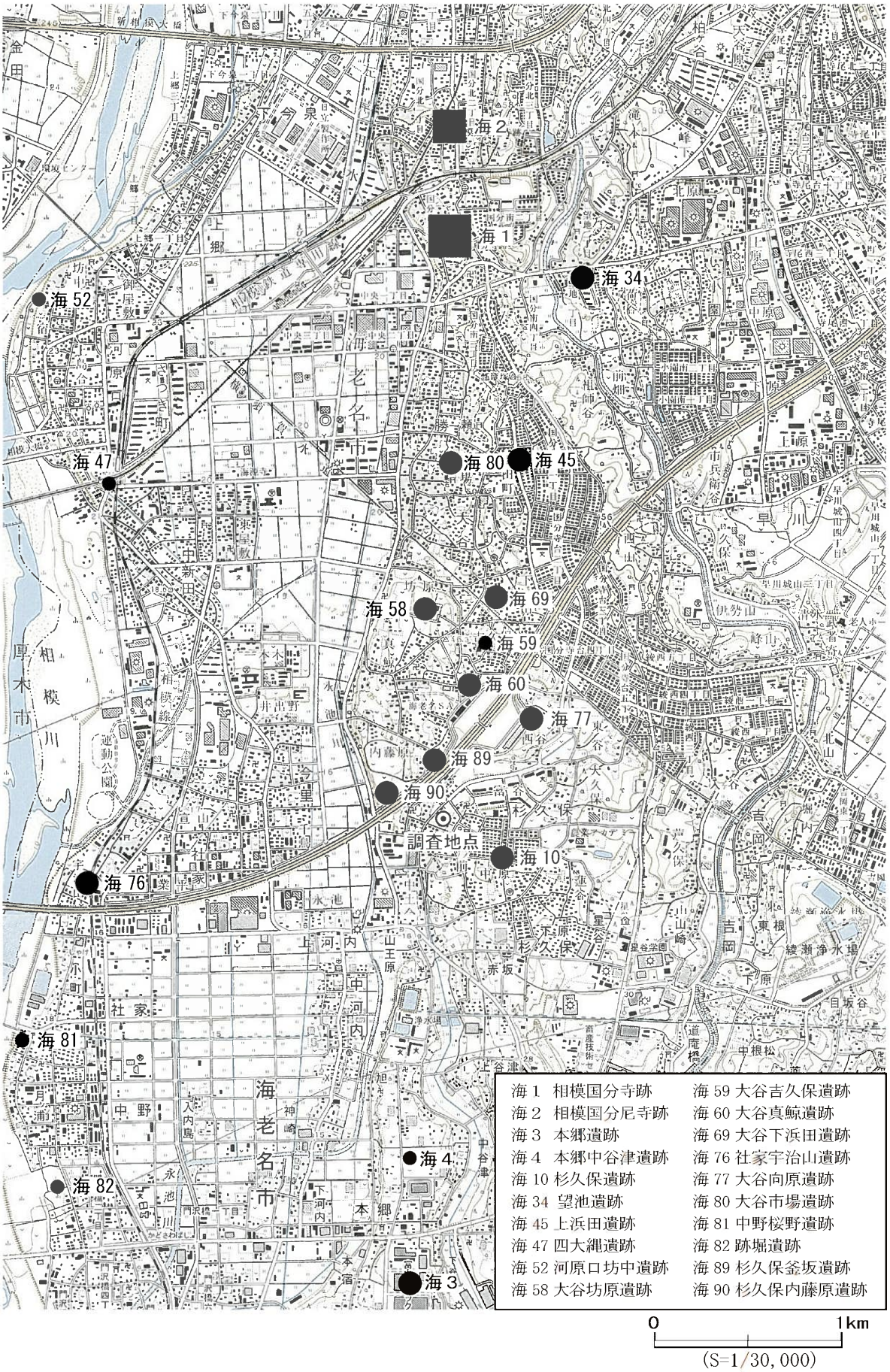
以上、発見された遺構及び遺物は多くはなかったものの、市内でも杉久保地域は奈良時代から中世にかけての調査事例が少なく、貴重な成果となった。

引用・参考文献

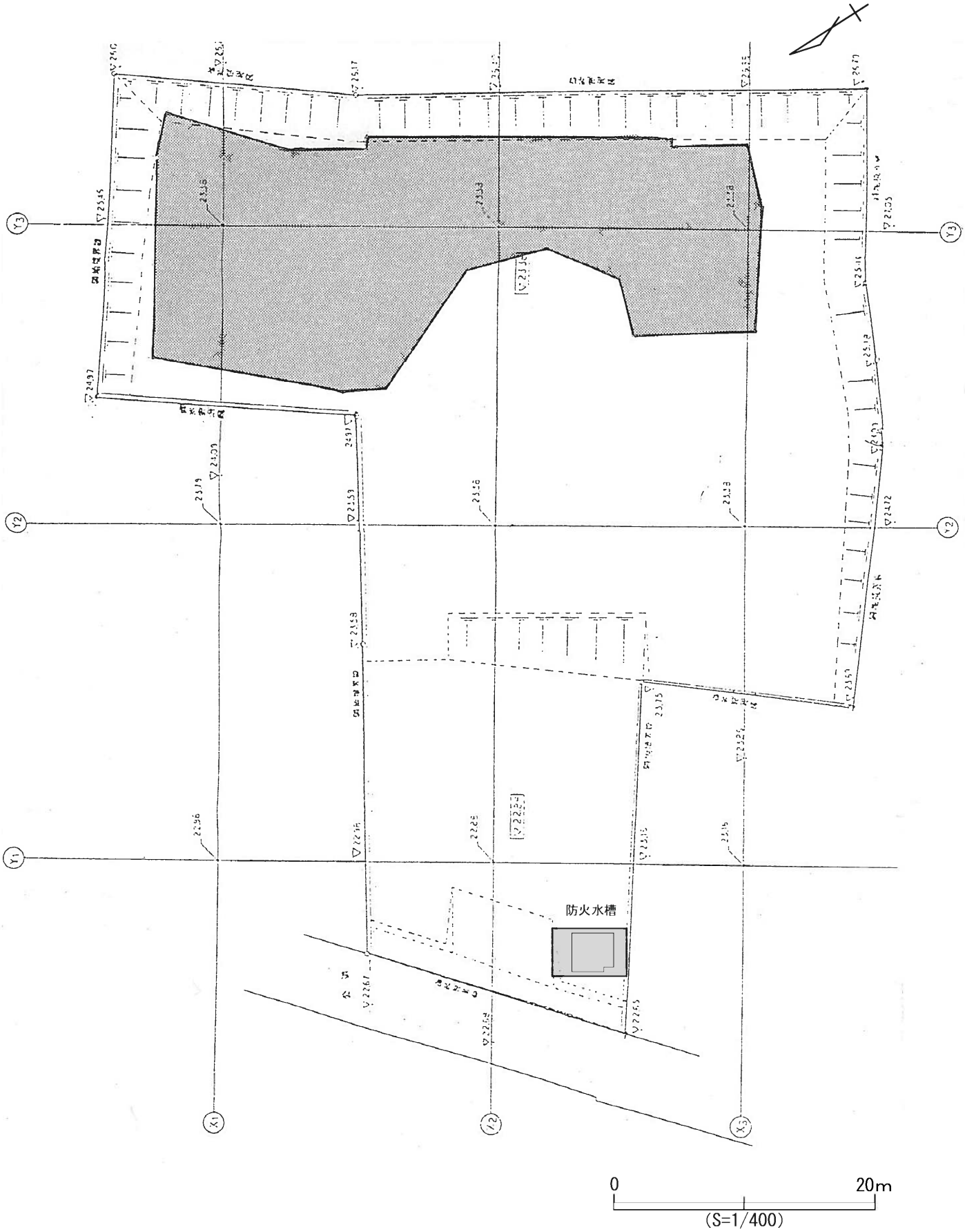
（有）吾妻考古学研究所　2016　『大谷坊原遺跡第２次調査発掘調査報告書』
（有）吾妻考古学研究所　2018　『大谷下浜田遺跡第 17 次調査発掘調査報告書』
海老名市　1998　『海老名市史』1 資料編原始・古代
海老名市　2003　『海老名市史』6 通史編原始・古代
海老名市遺跡調査会　1992　『大谷向原遺跡』
海老名市遺跡調査会　1998　『海老名市望地遺跡―第 4 次調査―　国分尼寺北方遺跡―第 12 次調査―発掘調査報告書』
海老名市教育委員会　1990　『相模国分寺関連遺跡１－尼寺跡の調査（1989～90 年度）－』
海老名市教育委員会　1990　『相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書Ⅰ－相模国分尼寺跡（推定中門・金堂跡）の調査－』
海老名市教育委員会　1992　『相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書Ⅱ－相模国分尼寺跡（推定講堂・中門・経蔵跡）の調査－』
海老名市教育委員会　1993　『相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書Ⅲ－相模国分尼寺跡平成 4 年度埋蔵文化財発掘調査事業－』
海老名市教育委員会　1994　『相模国分寺関連遺跡詳細分布調査報告書Ⅳ－相模国分尼寺跡平成５年度埋蔵文化財発掘調査事業－』
海老名市教育委員会　2012　『史跡相模国分寺跡』
海老名市教育委員会　2018　『望地遺跡第９次調査』
海老名市教育センター　1988　『海老名、その大地の生いたち』　海老名市教育委員会
海老名市 No. 47 遺跡発掘調査団　1997　『四大縄遺跡』
海老名市 No. 47 遺跡発掘調査団　1998　『四大縄遺跡』
大谷市場遺跡発掘調査団　2003　『大谷市場遺跡発掘調査報告書』　玉川文化財研究所
大谷下浜田遺跡発掘調査団　2002　『大谷下浜田遺跡　第 12・13 次調査発掘調査報告書』
大谷真鯨遺跡調査団　1992　『大谷真鯨遺跡』
大谷真鯨遺跡調査団　1999　『大谷真鯨遺跡第２次調査』
神奈川県教育委員会　1979　『上浜田遺跡』　神奈川県埋蔵文化財調査報告 15
国分尼寺北方遺跡調査団　1996　『国分尼寺北方遺跡―第 7 次・第 8 次調査―』
（公財）かながわ考古学財団　1998　『国分尼寺北方遺跡－第 17・18 次調査』　かながわ考古学財団調査報告 61
（公財）かながわ考古学財団　2009　『杉久保内藤原遺跡　杉久保内藤原横穴墓群　杉久保釜坂遺』　かながわ考古学財団調査報告 235
（公財）かながわ考古学財団　2009　『中野桜野遺跡』かながわ考古学財団調査報告 231
（公財）かながわ考古学財団　2011　『社家宇治山遺跡』かながわ考古学財団調査報告 264
（公財）かながわ考古学財団　2014　『河原口坊中遺跡第 4 次調査』かながわ考古学財団調査報告 300
（公財）かながわ考古学財団　2014　『河原口坊中遺跡第 1 次調査』かながわ考古学財団調査報告 304
（公財）かながわ考古学財団　2015　『河原口坊中遺跡第 2 次調査』かながわ考古学財団調査報告 307
髙橋香　2018「相模・武蔵における山林寺院の様相について－瓦塔と瓦を中心に－」『かながわの考古学』研究紀要 23　（公財）かながわ考古学財団
髙橋香　2019「地域の寺院と信仰のネットワーク」『あつぎ郷土博物館開館記念　厚木市史シンポジウム　愛甲の古代を探る』厚木市教育委員会
玉川文化財研究所　2012　『大谷下浜田遺跡第 14 次調査（海老名市№69 遺跡）発掘調査報告書』
茅ヶ崎市教育委員会　2013　『下寺尾官衙遺跡群の調査～下寺尾七堂伽藍跡・高座郡衙の調査～』茅ケ崎市埋蔵文化財調査報告 40
（株）盤古堂　2014　『望地遺跡第 12 地点調査概要報告書』
（有）ブラフマン　2015　『望地遺跡第 13・14 次調査』
本郷遺跡調査団　1991　『海老名本郷Ⅷ』
本郷遺跡調査団　1995　『海老名本郷Ⅺ』
本郷中谷津遺跡発掘調査団　1993　『本郷中谷津遺跡―第８次調査―』　相武考古学研究所
望地遺跡発掘調査団　1999　『望地遺跡－第６次調査－』



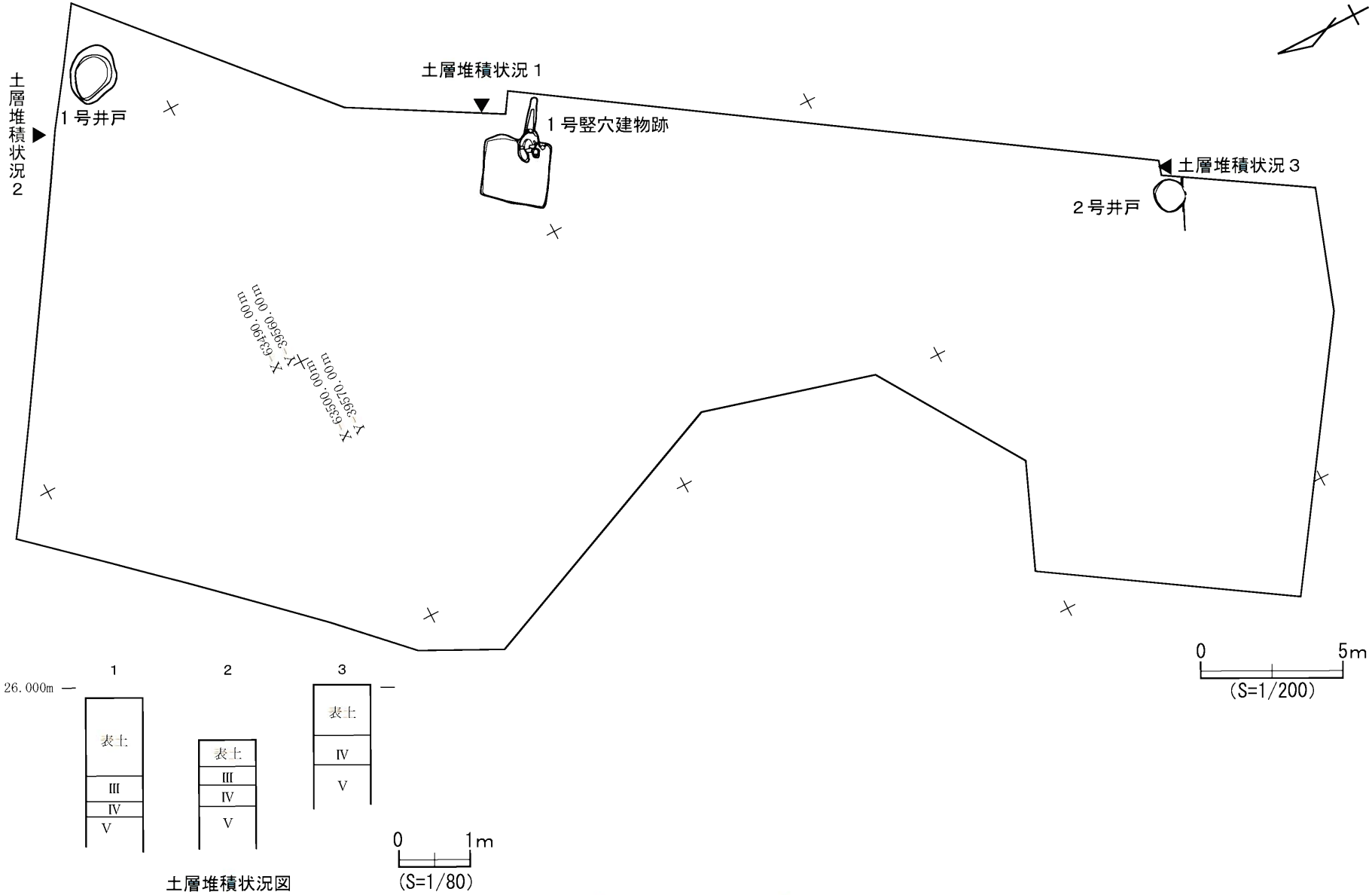
第１図　杉久保宮ノ前遺跡発掘調査地点



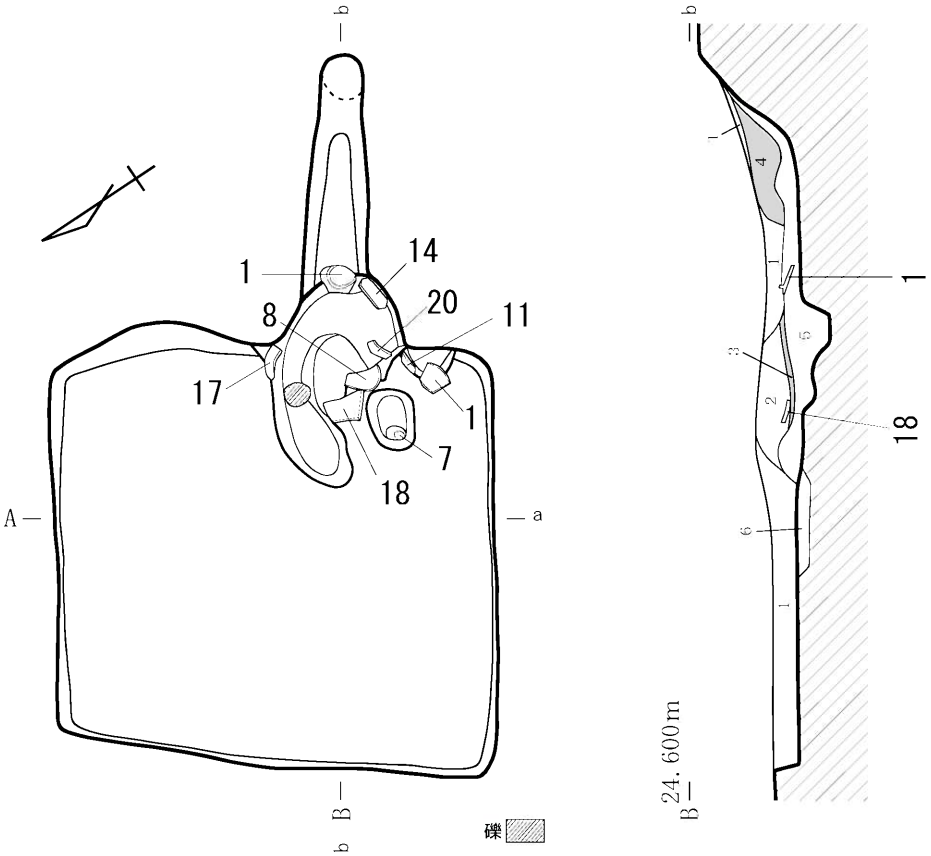
第２図　周辺の主要な遺跡

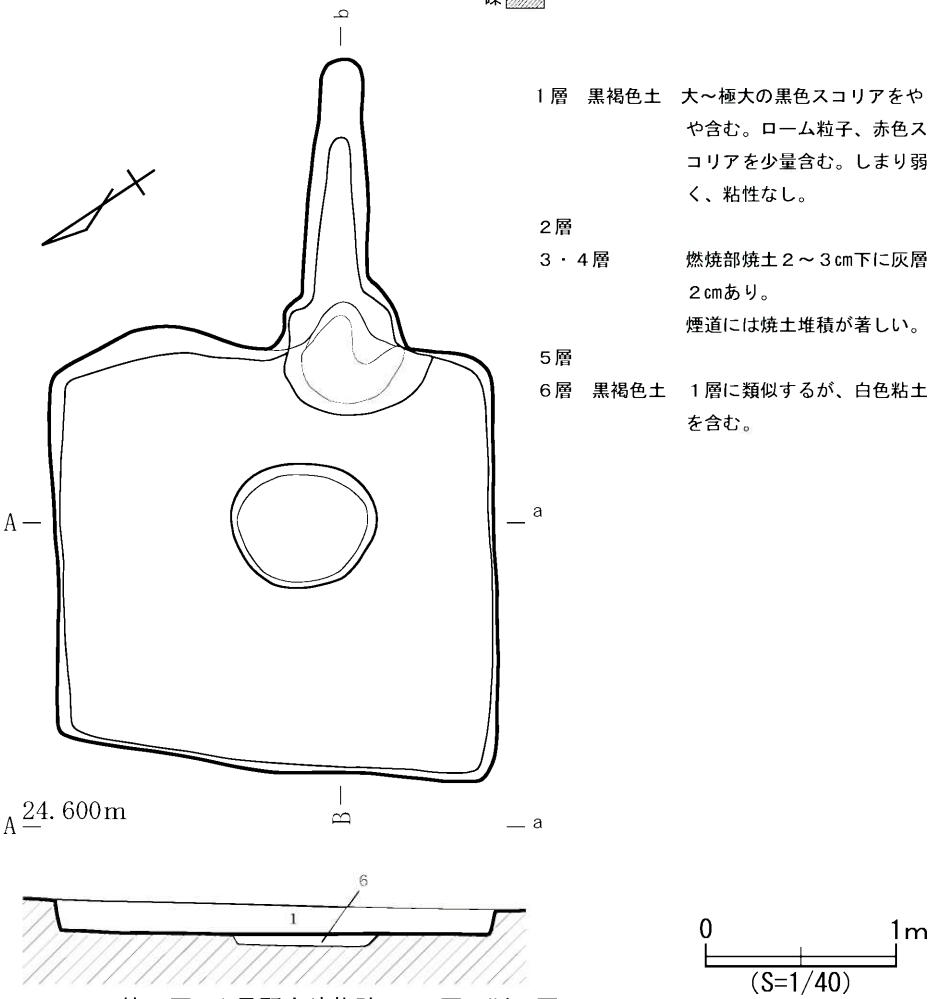


第３図　発掘調査区域



第４図　調査区全体図・土層堆積状況図





１層　黒褐色土　大～極大の黒色スコリアをやや含む。ローム粒子、赤色スコリアを少量含む。しまり弱く、粘性なし。

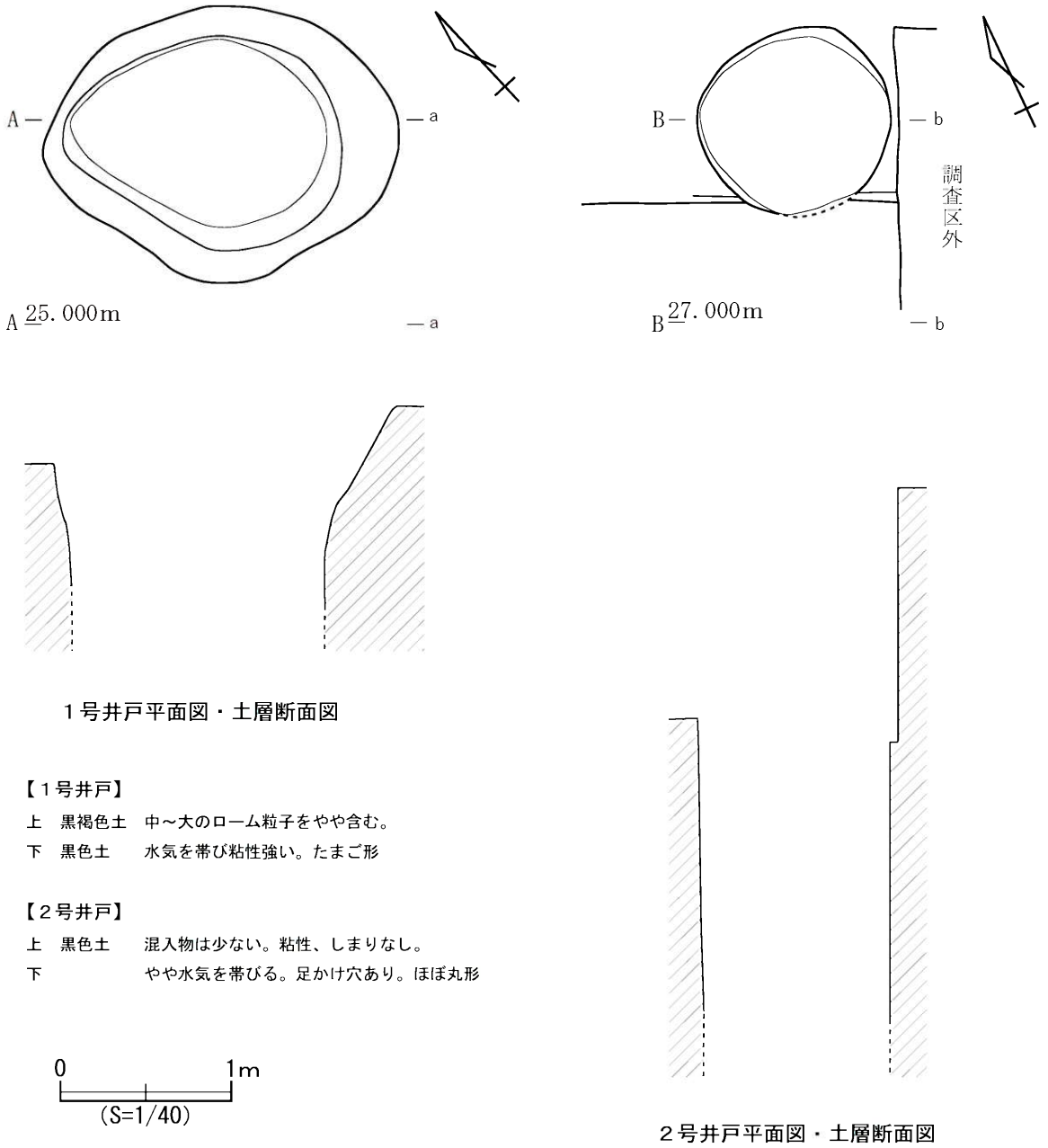
２層

３・４層　燃焼部焼土２～３cm下に灰層２cmあり。
煙道には焼土堆積が著しい。

５層

６層　黒褐色土　１層に類似するが、白色粘土を含む。

第５図　１号竪穴建物跡 平面図・断面図



１号井戸平面図・土層断面図

【１号井戸】

上　黒褐色土　中～大のローム粒子をやや含む。

下　黒色土　　水気を帯び粘性強い。たまご形

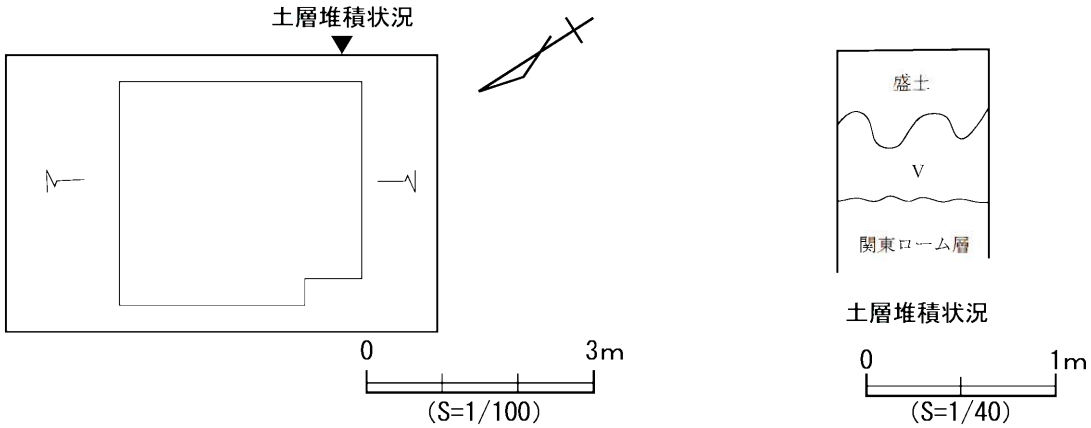
【２号井戸】

上　黒色土　　混入物は少ない。粘性、しまりなし。

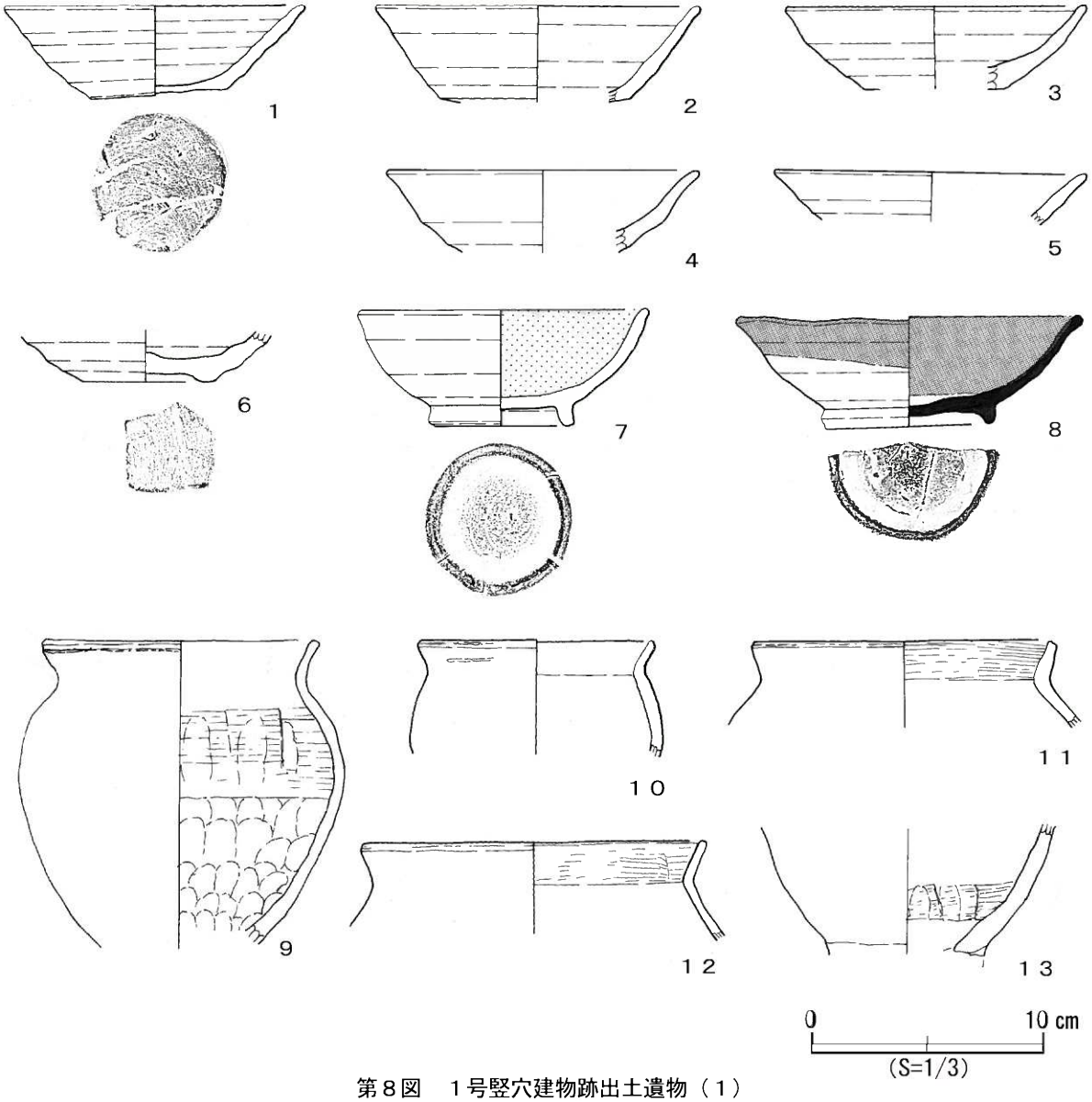
下　　やや水気を帯びる。足かけ穴あり。ほぼ丸形

２号井戸平面図・土層断面図

第６図　１号・２号井戸平面図・断面図



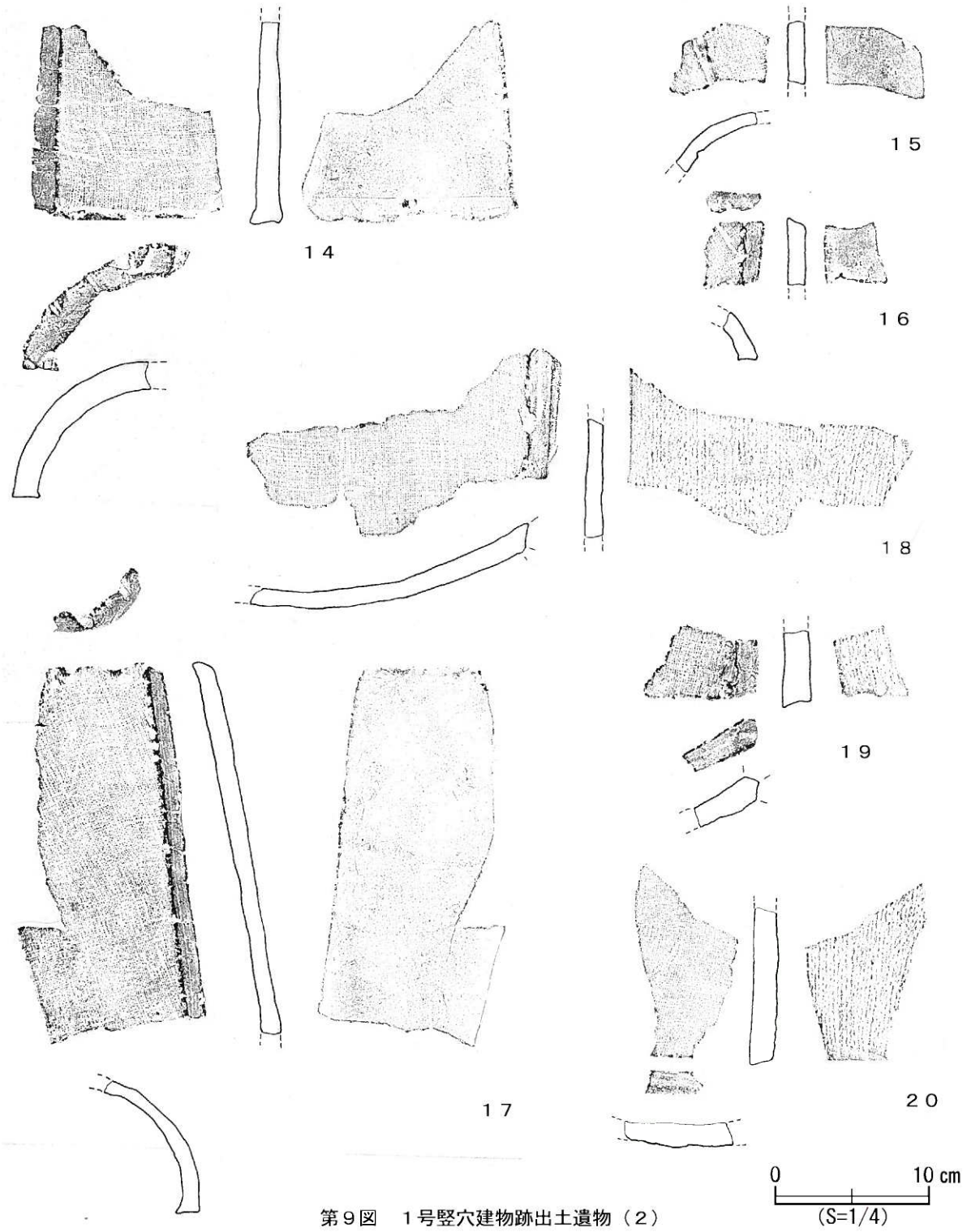
第７図　防火水槽設置部分調査平面図・土層堆積状況



第８図　１号竪穴建物跡出土遺物（１）

第2表　1号竪穴建物跡出土土器観察表

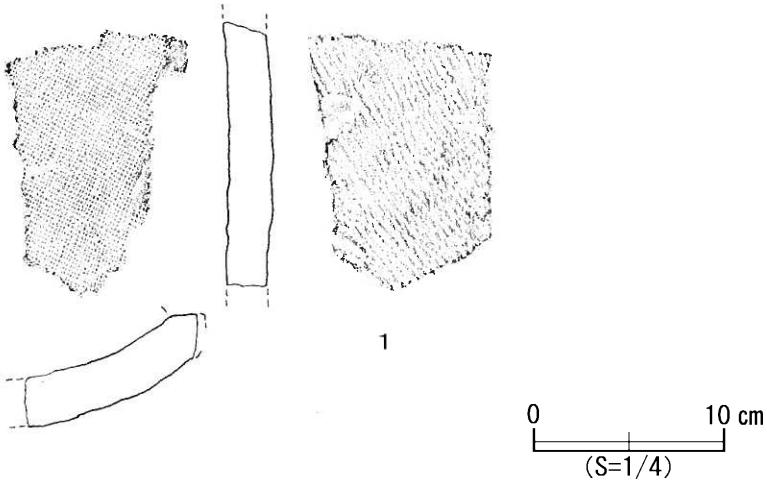
番号	種　別	計測値(cmまたはg)	形態・技法・産地等の特筆点	残存	出土位置
1	土師器・坏	口径12.9・底径5.8・器高3.9	ロクロ土師器・在地・破損後に煤付着	口縁部～体部1/2弱欠損	覆土
2	土師器・坏	口径(14.0)・底径(8.2)・器高(4.2)	ロクロ土師器・底部糸切り・在地・煤付着	口縁部～体部1/8弱	覆土
3	土師器・坏	口径(13.0)・底径(8.2)・器高(3.1)	ロクロ土師器・底部糸切り・在地・煤付着	口縁部～体部1/4	カマド
4	土師器・坏	口径(13.4)・底径－・器高－	ロクロ土師器・在地・煤付着	口縁部部1/5	覆土
5	土師器・坏	口径(13.4)・底径－・器高－	ロクロ土師器・在地	口縁部1/4	覆土
6	土師器・坏	口径－・底径(5.6)・器高－	ロクロ土師器・底部糸切り・在地・煤付着	底部1/6	カマド
7	土師器・椀	口径12.4・底径5.6・器高5.1	ロクロ土師器・底部糸切り・内黒土器・在地？	口縁部～体部2/5欠損	カマド
8	灰釉陶器・椀	口径14.9・底径7.6・器高4.8	高台内糸切痕がナデ残る・二川窯産・K90～O53号窯式	口縁部～体部2/5欠損	カマド
9	土師器・小型甕	口径12.0・底径－・器高－	相模型・煤付着	口縁部1/2、胴部上半3/4、底部を欠損	カマド
10	土師器・小型甕	口径(10.2)・底径－・器高－	相模型・煤付着	口縁部2/5	カマド
11	土師器・小型甕	口径(13.2)・底径－・器高－	相模型・煤付着	口縁部1/4	覆土
12	土師器・小型甕	口径(14.8)・底径－・器高－	相模型・煤付着	口縁部1/6	カマド
13	土師器・小型甕	口径－・底径－・器高－	相模型・煤付着・台坏甕	胴部下端破片	カマド



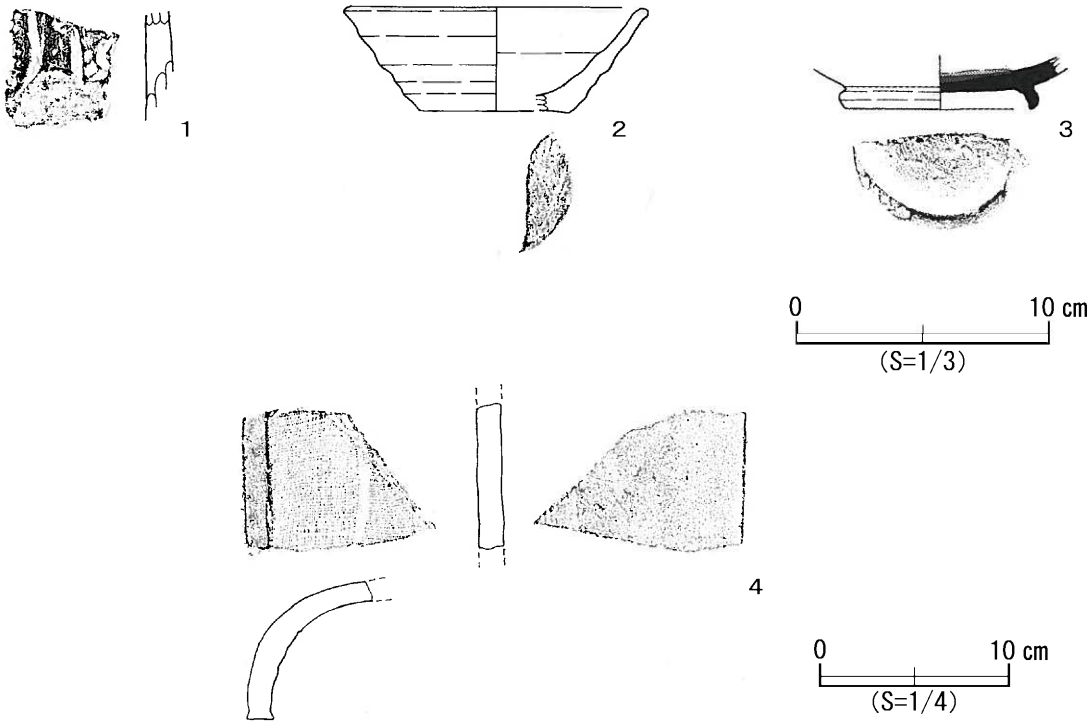
第９図　１号竪穴建物跡出土遺物（２）

第3表　1号竪穴建物跡出土瓦観察表

番号	種　別	計測値(cmまたはg)	形態・技法・産地等の特筆点	残存	出土位置
14	瓦・丸瓦	残存長13.33・弧径－・厚1.1～1.6・弧の高－・重量372	凹目、布・凸面、ナデ	破片	覆土
15	瓦・丸瓦	残存長3.9・弧径－・厚1.1・弧の高－・重量4.3	凹目、布・凸面、ナデ	小破片	覆土
16	瓦・丸瓦	残存長4.4・弧径－・厚1.2・弧の高－・重量26	凹目、布・凸面、ナデ	小破片	覆土
17	瓦・丸瓦	残存長24.4・弧径－・厚1.1・弧の高－・重量420	凹目、布・凸面、ナデ	破片	カマド
18	瓦・平瓦	残存長8.5・幅－・厚1.1～1.4・弧の高6.0・重量250	凹目、布・凸面、縄叩き・端部面取り	破片	カマド
19	瓦・平瓦	残存長5.3・幅－・厚1.7・弧の高－・重量58	凹目、布・凸面、縄叩き・端部面取り	小破片	覆土
20	瓦・平瓦	残存長12.8・幅－・厚0.8～1.4・弧の高－・重量144	凹目、布・凸面、縄叩き	破片	カマド



第 10 図　1号井戸出土遺物



第 11 図　遺構外出土遺物

第4表　1号井戸遺物観察表

番号	種　別	計測値(cmまたはg)	形態・技法・産地等の特筆点	残存	出土位置
1	瓦・平瓦	残存長14.5・幅－・厚2.2・弧の高－・重量403	凹目、布・凸面、縄叩き・端部面取り	破片・覆土	覆土

第5表　遺構外遺物観察表

番号	種　別	計測値(cmまたはg)	形態・技法・産地等の特筆点	残存	出土位置
1	縄文土器・深鉢か	口径－・底径－・器高－	沈線文・縄文後期	胴部破片・第Ⅲ層	第Ⅲ層
2	土師器・坏	口径(12.0)・底径(6.0)・器高(4.1)	ロクロ土師器・底部糸切り・在地・煤付着	口縁部～体部1/8弱	第Ⅲ層
3	灰釉陶器・椀	口径－・底径(5.6)・器高－	高台内糸切痕残る・美濃産・O53窯式併行(大原2号窯式)	底部1/3	第Ⅲ層
4	瓦・丸瓦	残存7.9・弧径－・厚1.1～1.3・弧の高－・重量130	凹目、布・凸面、ナデ	破片	第Ⅲ層

１号竪穴建物跡全景

１号竪穴建物跡掘方全景

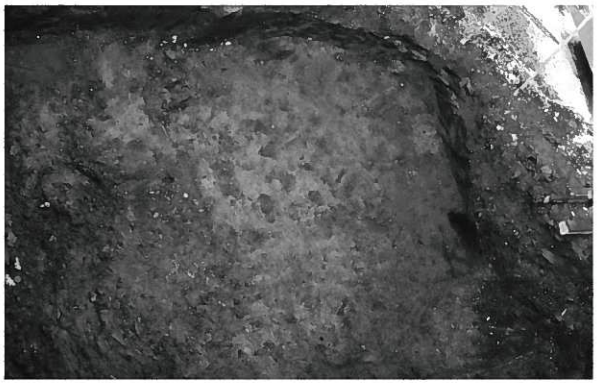
カマド全景

カマド遺物出土状況

カマド遺物出土状況（南西から）

１号井戸

２号井戸



防火水槽設置部分調査状況

写真図版２

8図1

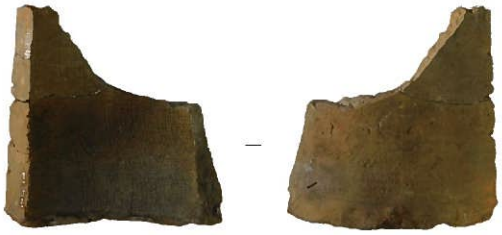
8図8

8図7

8図2 8図3 8図4 8図5 8図6

8図9

8図10 8図11 8図12 8図13


9図14

9図15

9図16

9図18

10図1

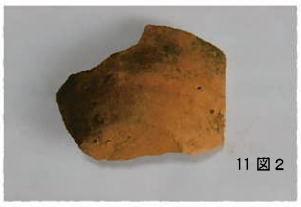
9図19 9図20

9図17

１号井戸出土遺物

１号竪穴建物跡出土遺物

11図1


11図2

11図3

11図4

遺構外出土遺物

報　告　書　抄　録

ふりがな	すぎくぼみやのまえはっくつちょうさほうこくしょ
書名	杉久保宮ノ前遺跡発掘調査報告書
編著者名	押方みはる・田尾誠敏・和田山千暁
編集機関	海老名市教育委員会
所在地	〒243-0422　神奈川県海老名市中新田377番地　TEL046-235-4925
発行年月日	2020年7月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積 ㎡	調査原因
すぎくぼみや まえいせき 杉久保宮ノ前遺跡	かながわけん 神奈川県 えびなし 海老名市 すぎくぼきた 杉久保北 2ちょうめ 二丁目 ばん 1066番他2	14215	33	35° 25′ 36″	139° 23′ 51″	19930113～ 19930118	612	コミュニティセンター建設に伴う造成
						19931006	20.8	防火水槽設置に伴う掘削

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
すぎくぼみや まえいせき 杉久保宮ノ前遺跡	集落跡	中世 平安時代	井戸２ 竪穴建物址１	土師器、須恵器、瓦、縄文土器、陶器	

要約	中世の井戸２基及び平安時代の竪穴建物跡１軒が確認された。遺構の分布は散漫ではあるが、竪穴建物址のカマドの構築材に布目瓦が使用されており、周辺に瓦を利用した施設の存在を示唆するものである。

・文化財保護、教育普及、学術研究を目的とする場合は、著作権者の承諾なくこの報告書の一部を複製して利用できます。なお、利用にあたっては出展を明記してください。

・この報告書に係る記録図面（写真類を含む）は、海老名市教育委員会で保管していますので、利用する場合は連絡の上、必要な手続きをとってください。

杉久保宮ノ前遺跡発掘調査報告書

発行日　令和2年7月31日
編集　海老名市教育委員会
発行　海老名市教育委員会教育部教育総務課文化財係
神奈川県海老名市中新田377番地　TEL046-235-4925